プロジェクト研究全体の概要

介護者における労働生活の質の評価とその向上に関する研究

Study on Evaluation and Improvement of a Care Worker's Quality of Working Life

岩切一幸*1，外山みどり*1，高橋正也*2，劉欣欣*1，小山冬樹*1，市川洌*3

人間工学研究グループ*1　過労死等防止調査研究センター*2　福祉技術研究所株式会社*3

■IWAKIRI Kazuyuki, SOTOYAMA Midori, TAKAHASHI Masaya, LIU Xinxin, OYAMA Fuyuki, ICHIKAWA Kiyoshi

高齢者介護施設（以下，介護施設と記載）では，介護職員（以下，介護者と記載）の人材不足が大きな問題となっている．この背景には，介護者のやりがいの喪失や過重な作業負担があると考えられる．これらの問題を解決する一つの方策としては，身体的・精神的な健康保持増進に繋がる，労働生活の質（Quality of Working Life: QWL と以下記載）の向上が必要と思われる．しかし，介護者の QWL を簡易的に評価できる指標はなく，また現在の介護施設において介護者の QWL を向上させる取り組みも十分に分かっていない．そこで本プロジェクト研究では，介護者の QWL を簡易的に評価する尺度を提案し，その妥当性および信頼性を検証した．また，その尺度を用いて，現在の介護施設における介護者の QWL に影響する要因とその要因を改善に導く施設としての取り組みについて検討した．さらに，介護者の健康面において腰痛と QWL が関連したことから，介護者の腰痛要因とその対策についても検討した．これらの結果は，介護者の QWL を向上させる取り組みを手助けするためのマニュアルとしてまとめ，当研究所ホームページにて公開した．

1　研究の背景

我が国の高齢者介護施設（以下，介護施設と記載）では，介護職員（以下，介護者と記載）の人材不足が深刻化している[1]．厚生労働省「介護人材確保対策」の資料[2]によると，介護者は2025年に約38万人不足すると推計されている．この背景には，施設入居者の要介護度および認知症の重度化による介護者の過重な作業負担ややりがいの喪失があると考えられる．厚生労働省は，この人材不足に対し，介護者の確保対策として以下の4項目を柱に据えて取り組んでいる[2]．

① 潜在介護人材の呼び戻し
② 学生の新規参入促進
③ 未経験中高齢者の新規参入促進
④ 離職防止・定着促進

これらのうち，①～③の対策によって就業する者が増えても，実効性のある④離職防止・定着促進が機能しなければ，介護者不足は解消されない．そこで，厚生労働省は，2019年4月より「人材育成等に取り組む介護事業者の認証評価制度」（社援基発0401 第2号）を開始した．これは，介護者の離職防止と定着促進を目的に，都道府県が介護事業所の人材育成や就労環境などの改善につながる取り組みを評価し，施設に認証を付与する制度である．介護事業所の評価基準は，各都道府県において独自に作成されている．一方，介護者の定着を評価する基準は離職率が基本となるが，加えて職場への不満や満足の程度を把握することも重要となる．しかし，この認証制度において，介護者の定着につながる職場への不満や満足の程度を評価する方法は提案されていない．

欧米では，リスク管理をするだけではなく，労働生活の質（Quality of Working Life: QWLと以下記載）を向上させることが必要と考えられている[3]．介護職場では，労働災害全般の防止に加え，働きやすい職場が求められており，介護者のQWL向上が必要になっている．介護者のQWLに影響する項目としては，給与，上司や同僚との人間関係，仕事を通じた成長欲求などがあげられている[4]．これらの項目は，介護者のQWL構成要素と考えられる．しかし，現在の介護施設において介護者のQWLを向上させる取り組みは十分に分かっていない．介護者のQWLの向上を図ることは，労働災害の減少に加え，離職防止や雇用促進にもつながると思われる．

介護者のQWLを評価する尺度としては，これまでいくつか提案されている[4-6]．しかし，介護者のQWLに的を絞り，かつ簡易的に評価できる尺度はない．介護者の離職を防止して定着を促進するには，職場への不満や満足の程度を評価しうる，簡易的かつ使いやすいQWL尺度が必

*1 労働安全衛生総合研究所　人間工学研究グループ
*2 労働安全衛生総合研究所　過労死等防止調査研究センター
*3 福祉技術研究所株式会社
連絡先：〒214-8585 神奈川県川崎市多摩区長尾 6-21-1
労働安全衛生総合研究所　人間工学研究グループ　岩切一幸*1
E-mail: iwakiri@h.jniosh.johas.go.jp

要と思われる．

そこで本プロジェクト研究では，介護者のQWLを簡易的に評価する尺度（以下，介護者QWL簡易尺度と記載）を提案し，その妥当性および信頼性を検証した．また，その尺度を用いて，現在の介護施設における介護者QWLに影響する要因とその要因の改善につながる組織的な取り組みついて検討した．さらに，介護者の健康面において腰痛とQWLが関連したことから，現在の介護施設における介護者の腰痛要因とその対策についても検討した．これらの結果は，介護施設の取り組みを把握するためのチェックリストと改善策を考える際の対策例を記したマニュアルとしてまとめ，当研究所ホームページにて公開した．

2　研究の概要

本研究は，入所系，通所系，訪問系などがある高齢者介護サービスの内，最も基本的かつ拠り所となる入所系施設の特別養護老人ホームを対象に実施した．研究期間は，平成 30 年度から令和 2 年度の 3 年間であった．

1)介護者 QWL 簡易尺度

本研究では，まず介護者QWL簡易尺度を作成するために，特別養護老人ホーム2施設に勤務する介護者12名を対象に，半構造化インタビュー形式のヒアリング調査を実施した．その後，尺度案を作成し，特別養護老人ホーム7施設に勤務する介護者139名を対象に，2回のアンケート調査を実施し，介護者QWL簡易尺度の妥当性および信頼性を検証した．

2) 介護者 QWL に影響する要因とその対策

介護者QWL簡易尺度を用いて，全国の特別養護老人ホームを対象に，介護者のQWLに影響する主要な要因とQWLを向上させるために有用な組織的な取り組みを明らかにすることを目的としたアンケート調査（以下，全国調査と記載）を実施した．調査では，本研究用に作成した施設管理者記載の施設用アンケートと介護者記載の介護者用アンケートを用いた．

3) 腰痛と介護者 QWL

介護者の健康面において腰痛とQWLが関連したことから，全国調査で収集した安全衛生活動，介助方法，福祉用具の使用などの項目と腰痛との関係を解析し，介護者の腰痛要因とその対策について検討した．

4) QWL アクション・チェックポイント

以上の結果をまとめ，介護者のQWLを改善する取り組みを手助けするためのマニュアルとして「介護施設における介護者の労働生活の質（QWL）向上のためのアクション・チェックポイント（以下，QWLアクション・チェックポイントと記載）」を作成し，公開した．

3　研究成果

1) 介護者 QWL 簡易尺度

ヒアリング調査の結果，働きがいや働き続けたいという気持ちの強い介護者は，仕事に対する意欲や意思が強く，満足度や達成感が高い傾向にあり，またそれらの気持ちの弱い者はそれらが低い傾向がみられた．これらの傾向は，今回の調査に限らず，我々がこれまでに行ってきた複数の調査においても同様であった．これらのことから，介護者QWL簡易尺度は，働く「意欲」，働き続けたい「意思」，業務に対する「満足度」，仕事の「達成感」の4項目で構成し，それらの合計点数で評価することにした．各項目は，1.大変低い（または大変弱い），2.低い（または弱い），3.どちらとも言えない，4.高い（または強い），5.大変高い（または大変強い）の5件法にて評価した．

介護者QWL簡易尺度の合計点数は，Spearmanの順位相関分析の結果，妥当性および信頼性が証明されている既存尺度[4-6]といずれも有意な相関関係（$|\rho| = 0.52$～0.69, $p < 0.001$）が認められた．また，1回目調査と2回目調査の間にも有意な相関関係（$\rho = 0.60$, $p < 0.001$）が認められた．さらに，信頼性分析の結果，Cronbachの α 係数は，1回目調査（0.85）と2回目調査（0.82）においていずれも0.80以上と高い値を示した．以上の結果から，本研究で提案した介護者QWL簡易尺度の合計点数は，介護者QWLを測る尺度として一応の妥当性および信頼性が得られたと考えられる．

これらの結果は，学術雑誌に投稿して受理され，現在印刷中である[7]．本誌の他稿にはその内容を一部改変して掲載する．

2) 介護者 QWL に影響する要因とその対策

全国調査では，全国の特別養護老人ホーム6,940施設から無作為抽出した1,000施設とそれらの施設に勤務する介護者8,000名（1施設あたり8名）を対象に，アンケート調査を実施した．施設用アンケートの回答数は505部（回収率：50.5%），介護者用アンケートの回答数は3,565部（44.6%）であった．その内，解析対象施設は欠損データの多い1施設を除いた504施設，解析対象者は性別・年齢の欠損データを除いた3,478名（男性1,331名，女性2,147名）とした．

介護者QWL簡易尺度と仕事に伴う満足／不満足感との関連を，性別，年齢群，職業性ストレスで調整したロジスティック回帰分析にて解析した．その結果，介護者のQWLは，人間関係（OR: 3.92, 95%CI: 3.09–4.97）に満足している者ほど高く，また作業人数・配置（OR: 3.69, 95%CI: 2.56–5.32），コミュニケーション（OR: 3.42, 95%CI: 2.66–4.40），施設からのサポート（OR: 3.37, 95%CI: 2.69–4.23），労働時間・休み（OR: 3.20, 95%CI: 2.53–4.04），裁量（OR: 3.09, 95%CI: 2.46–3.88）に満足している者ほど高かった．

不満足の理由・相手・内容を聞いたところ，人間関係に不満の相手は上司（16.9%）が最も多く，次いで同僚（11.3%）であった．コミュニケーションに不満の理由は，内容が不十分（10.5%），コミュニケーションがないまたは不十分（8.2%）であった．施設からのサポートへの不満内容は，精神的ストレス（24.2%）、勤務体制・労働時間・休み（24.2%）に関するサポート不足が特に多かった．労働時間・休みへの不満の理由は，有給休暇がとりにくい（35.4%），休みの日が少ない（14.3%），休みの日が不規則（12.0%），労働時間が長すぎる（10.1%）であった．裁量に関する不満の理由は，人員配置（9.9%）に関する裁量がないことが多かった．

また，介護者QWL簡易尺度と病気などでの通院または重度腰痛との関連を，性別，年齢群，職業性ストレスで調整したロジスティック回帰分析にて解析した．ここでの重度腰痛とは，「腰痛のため仕事に支障をきたしたが仕事は休まなかった」者と「腰痛のため仕事を休んだことがある」者を合計した値とした[8]．その結果，介護者のQWLは，精神疾患，高血圧症，糖尿病，関節症での通院との間に関連性は認められなかった．しかし，介護者のQWLは，腰痛で針灸・マッサージなどに通院していない者ほど高く（OR: 1.86, 95%CI: 1.16–2.99），また仕事に支障をきたすほどの重度腰痛のない者ほど高かった（OR: 1.69, 95%CI: 1.32–2.17）．

これらの結果は，現在，学術雑誌に投稿しており，本誌の他稿にはその内容を一部改変して掲載する．

3) 腰痛と介護者 QWL

全国調査の3,478名の介護者を対象に，上述の重度腰痛の有無と，施設で取り組んでいる安全衛生活動，介助方法，福祉用具の使用などとの関連を，性別，年齢群，喫煙状況，職業性ストレスで調整したロジスティック回帰分析にて解析した．その結果，重度腰痛と安全衛生活動との間に，オッズ比2.00を超える強い関連性は認められなかった．しかし，重度腰痛と介助方法との間には強い関連性が認められ，特に移乗介助（OR: 2.99, 95%CI: 2.10–4.26）および入浴介助（OR: 3.46, 95%CI: 2.44–4.90）において無理な姿勢をとっている者ほど重度腰痛を訴えていた．さらに，安全衛生活動と介助方法との関係を解析した結果，無理な姿勢をとっていない者は，福祉用具の講習・研修や福祉用具の使用指導を受けており，入居者ごとの介助方法を実施していた．

以上の結果から，介護者の重度腰痛を予防するには，無理な姿勢をとらないようにすることが重要で，そのためには福祉用具の講習・研修やその使用指導により，適切な作業姿勢を指導していくことが必要と思われた．これらの取り組みにより，腰痛の予防または軽減ができれば，介護者のQWL向上にもつながると思われる．

これらの結果は，学術雑誌に投稿して受理され，現在印刷中である[9]．本誌の他稿にはその内容を一部改変して掲載する．

図1 QWLアクション・チェックポイント

4) QWL アクション・チェックポイント

以上の結果をまとめ，介護者の QWL を向上させる取り組みを手助けするためのマニュアルとして，QWL アクション・チェックポイントを作成した（図 1）．QWL アクション・チェックポイントは，8 頁の紙版と 16 頁の電子版を作成した．電子版の 9～16 頁には，研究結果にもとづいた掲載内容の根拠を示している．想定する使用対象者は，施設管理者とした．使用方法は，まず施設で行っている介護者の QWL 向上につながる取り組みの有無をチェックリストにて確認する．次いで，不十分な施設の取り組みについて，具体的対策例を参考に，施設に合った対策を検討する．電子版は，当研究所ホームページ（URL: https://www.jniosh.johas. go.jp/publication/doc/houkoku/2021_01/QWL_web_2021.pdf）にて公開し，無料で使用できるようにした．また，介護者 QWL 簡易尺度の妥当性および信頼性の調査にご協力頂いた某県の認証制度に登録している約 800 施設に対し，上記 URL を送付して活用をお願いした．紙版は，同調査にご協力頂いた介護施設に配布するとともに，認証制度に今後登録する際の勧誘資料として 100 部を同県に提供した．

本プロジェクト研究の最後には，QWL アクション・チェックポイントの紙版を付録として掲載する．

4　総括・今後の課題

本研究で提案した介護者QWL簡易尺度は，一応の妥当性および信頼性が得られた．その介護者QWL簡易尺度には，人間関係，作業人数・配置，コミュニケーション，施設のサポート体制，労働時間・休み，裁量，さらには腰痛が主に関連した．介護者のQWLを向上させる具体的な対策としては，介護者の不満足理由から勘案して，上司や同僚とのコミュニケーションを促進するための部署単位での打合せや個別相談などが必要と思われた．また，施設において勤務体制，労働時間，休み，精神的ストレスに関する相談窓口や担当者を設け，それらを活用しやすい環境づくりも必要と思われた．さらに，作業人数や休みの取得について部署単位にて調整できるように，裁量を与えることも必要と思われた．以上のような対策は，各施設の管理者と介護者が一緒になって話し合い，取り

組む必要がある．その際，介護者の技術，入居者の状態，作業環境，使用できる福祉用具などは施設によって異なることから，QWLアクション・チェックポイントを用いて，各施設に合った取り組みを考えて頂ければと思う．

今後の課題としては，介護者の満足理由に着目することが考えられる．本研究で取り上げた対策は，主に不満足な理由をもとに作成した．不満足な理由ではなく，満足な理由にこそ本来QWLを向上させるヒントがあるかもしれない．例えば，人は褒められたり，必要とされたりすると満足感を得て，仕事のやりがいが増すことがある．このように，介護者のQWLを低下させない取り組みに加え，QWLを向上させる取り組みについても好事例として収集し，活用できるようにしていくことが必要と考える．

参　考　文　献

1) 介護労働安定センター．令和元年度介護労働実態調査 事業所における介護労働実態調査結果報告書. 2019.

2) 厚生労働省．介護人材確保対策（参考資料）．社保審－介護給付費分科会，第 145 回（H29.8.23）参考資料 2, 2017.

3) 西川真規子.よりよい働き方とは―雇用の質への試験的アプローチ．日本労働研究雑誌. 2013: 632, 48–60.

4) 李政元．ケアワーカーの QWL とその多様性 ギルド理論による実証的研究．関西学院大学出版会. 2011.

5) Shimazu A, Schaufeli WB, Kosugi S, et al. Work engagement in Japan: validation of the Japanese version of Utrecht Work Engagement Scale. Applied Psychology: An International Review. 2008: 57, 510–523.

6) 久保真人．日本版バーンアウト尺度の因子的，構成概念妥当性の検証．労働科学. 2007: 83, 39–53.

7) 岩切一幸，外山みどり，高橋正也，劉欣欣，小山冬樹．介護者の労働生活の質（QWL）評価のための簡易尺度の提案．産業衛生学雑誌. 2021: 64(3)（印刷中）．

8) Von Korff M, Ormel J, Keefe FJ, Dworkin SF. Grading the severity of chronic pain. Pain. 1992: 50. 133–149.

9) Iwakiri K, Sotoyama M, Takahashi M, Liu X. Changes in risk factors for severe low-back pain among caregivers in care facilities in Japan from 2014 to 2018. Industrial Health. 2021: 59(4) (in press).

研究業績リスト

課題名：介護者における労働生活の質の評価とその向上に関する研究

令和元年度（2019 年）		
1	その他の専門家向け出版物	岩切一幸（2019）腰痛発生と予防の基本．安全と健康，Vol. 20，No. 7，pp.17–21.
2	国内学術集会	岩切一幸，外山みどり，高橋正也，劉　欣欣（2019）介護者における労働生活の質（QWL）とその関連要因に関する研究. 第 92 回日本産業衛生学会, 産業衛生学雑誌, Vol. 61,（Suppl.）, p.447.
3	特別講演等	岩切一幸（2019）職業性腰痛の予防対策と今後の重量物規制について．安全衛生技術講演会，東京会場・大阪会場.
4	特別講演等	岩切一幸（2019）社会福祉施設における腰痛予防の取組．労働大学校労働衛生専門官研修.
5	特別講演等	岩切一幸（2019）腰痛防止対策社会-福祉施設における腰痛予防の取組を中心に–．労働大学校安全衛生専門研修.
6	特別講演等	岩切一幸（2019）作業管理・作業環境管理及び業務上腰痛の発生状況と改善事例．腰痛予防労働衛生教育インストラクターコース（総合），東京安全衛生教育センター.
7	特別講演等	岩切一幸（2019）作業管理・作業標準作成．腰痛予防労働衛生教育インストラクターコース（福祉・医療分野），東京安全衛生教育センター.
令和 2 年度（2020 年）～		
1	調査報告	Kazuyuki Iwakiri, Midori Sotoyama, Masaya Takahashi, Xinxin Liu (2021) Changes in risk factors for severe low-back pain among caregivers in care facilities in Japan from 2014 to 2018. Industrial Health. 59, pp.260–271.
2	短報	岩切一幸，外山みどり，高橋正也，劉　欣欣，小山冬樹．介護者の労働生活の質（QWL）評価のための簡易尺度の提案．産業衛生学雑誌．（印刷中）
3	著書	岩切一幸（2021）第 2 部腰痛の原因と対策．公益財団法人テクノエイド協会，リフトリーダー養成研修テキスト六訂版，pp.25–44，東京，公益財団法人テクノエイド協会.
4	国内学術集会	岩切一幸，外山みどり，高橋正也，劉　欣欣（2020）介護施設における介護者の腰痛とその予防に関する取り組み～H30 年度と H25 年度の比較～．第 93 回日本産業衛生学会，誌上開催・web 開催.